

企画展「石川近代文学館おでかけ展示 くらべる文学展 in 歴博」展示資料目録

番号	展示室	展示コーナー	資料名	所蔵(空欄は石川近代文学館)
001	第1室	石川近代文学館のあゆみ	新保千代子宛川端康成書簡 昭和42年6月30日付	
参考品	第1室	石川近代文学館のあゆみ	石川近代文学館設立趣意書 昭和43年4月	
参考品	第1室	石川近代文学館のあゆみ	「石川近代文学館開館記念 郷土作家三人展」図録	
参考品	第1室	石川近代文学館のあゆみ	『雪國』川端康成著 昭和12(1937)年7月5日8版 創元社	
002	第1室	石川近代文学館のあゆみ	「黄釉鳥文花器」(昭和35年)大樋陶治斎 作	
参考品	第1室	石川近代文学館のあゆみ	写真 開館当初の石川近代文学館にあった室生犀星復元書斎	
003	第1室	作家の好きなもの	泉鏡花自筆原稿「白鬼女物語」貼り合わせ二曲屏風	
参考品	第1室	作家の好きなもの	『高野聖』泉鏡花著 明治41年2月20日 久久良書房	
004	第1室	作家の好きなもの	銀杯 泉清次・作	
005	第1室	作家の好きなもの	泉鏡花遺品 うさぎ置物 3体	
006	第1室	作家の好きなもの	泉鏡花自筆原稿「義血侠血」決定稿	
参考品	第1室	作家の好きなもの	『なにがし』泉鏡花著 明治34年12月30日5版 春陽堂	
参考品	第1室	作家の好きなもの	『誓之巻』泉鏡花著 明治39年7月20日3版 日高有倫堂	
007	第1室	作家の好きなもの	湯浅茂苑泉鏡花書簡 大正5(1916)年6月19日	石川県立歴史博物館蔵
008	第1室	作家の好きなもの	湯浅茂苑遺品 櫛 笄	
009	第1室	作家の好きなもの	徳田秋聲遺品 西園寺公望書幅	徳田家蔵(寄託品)
010	第1室	作家の好きなもの	徳田秋聲遺品 サンタクロース面	徳田家蔵(寄託品)
参考品	第1室	作家の好きなもの	『仮装人物』徳田秋聲著 昭和13年12月21日 中央公論社	
011	第1室	作家の好きなもの	徳田秋聲遺品 飾り棚	徳田家蔵(寄託品)
012	第1室	作家の好きなもの	徳田秋聲遺品 香炉	徳田家蔵(寄託品)
013	第1室	作家の好きなもの	徳田秋聲遺品 大燵焼	徳田家蔵(寄託品)
014	第1室	作家の好きなもの	徳田秋聲遺品 オランダ鉢	徳田家蔵(寄託品)
015	第1室	作家の好きなもの	徳田秋聲遺品 青磁片口	徳田家蔵(寄託品)
参考品	第1室	作家の好きなもの	『縮図』徳田秋聲著 昭和21(1946)年11月20日 小山書房	
016	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 机	
017	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 筆立て(付 筆)	
018	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 漆塗りペン皿(付 こより、ピンセット、煙管吸口他)	
019	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 机上敷物(付 犀星箋)	
020	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 水差し	
021	第1室	作家の好きなもの	室生犀星自筆書額「ほろほろのつくあかひけりうめのハナ」	
022	第1室	作家の好きなもの	室生犀星自筆句幅「筆えらぶ店さきにあてて冴えかへる」	
023	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 手文庫	
024	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 火鉢(付 灰さじ、火箸)	
参考品	第1室	作家の好きなもの	写真 犀星とジノ、ジノ	室生犀星記念館提供
025	第1室	作家の好きなもの	室生犀星自筆原稿『愛の詩集』	
参考品	第1室	作家の好きなもの	『愛の詩集』室生犀星著 大正7(1918)年1月1日 感情詩社	
026	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 虫かご(扇形、長方形大、長方形小)	
参考品	第1室	作家の好きなもの	『動物詩集』室生犀星著 昭和18(1943)年9月5日 日本繪雑誌社	
027	第1室	作家の好きなもの	藤岡作太郎遺品 錦絵 小国政(5代目歌川国政)・作	
参考品	第1室	作家の好きなもの	『国文学全史 平安朝篇』藤岡作太郎著 明治38(1905)年10月 東京開成館	
028	第1室	作家の好きなもの	藤岡作太郎遺品 火鉢	
029	第1室	作家の好きなもの	藤岡作太郎遺品 鉄瓶	
030	第1室	作家の好きなもの	藤岡作太郎遺品 小筆筒	
031	第1室	作家の好きなもの	中野重治遺品 机	
参考品	第1室	作家の好きなもの	『歌のわかれ』中野重治著 昭和16(1941)年11月3日 新潮社	
032	第1室	作家の好きなもの	中野重治遺品 燭台	
033	第1室	作家の好きなもの	中野重治遺品 小筆筒	
034	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 九谷焼青手大皿	
035	第1室	作家の好きなもの	室生犀星遺品 李朝の壺	
036	第1室	作家の好きなもの	井上靖自筆色紙「潮冴える北の海」風間完・画	
037	第1室	作家の好きなもの	井上靖遺品 柔道着(上下、黒帯)	
参考品	第1室	作家の好きなもの	『北の海』井上靖著 昭和50(1975)年12月15日3版 中央公論社	
038	第1室	作家の好きなもの	戸部新十郎遺品 木刀	
039	第1室	作家の好きなもの	戸部新十郎遺品 刺し子、袴	
040	第1室	作家の好きなもの	戸部新十郎遺品 居合道五段免状	
041	第1室	作家の好きなもの	戸部新十郎自筆色紙「一剣倚天寒」	
参考品	第1室	作家の好きなもの	『兵法秘伝考』戸部新十郎著 平成7(1995)年3月3日 新人物往來社	
042	第1室	作家の扇子	徳田秋聲自筆扇面「青梅の肌薄しるし葉かくれに」	
043	第1室	作家の扇子	泉鏡花自筆扇面「音や泉石の葱のあさみどり」	
044	第1室	作家の扇子	細見綾子自筆扇面「で、虫が桑で吹かる、秋の風」	
参考品	第1室	作家の扇子	『曼荼羅』細見綾子著 昭和53(1978)年6月10日 立風書房	
045	第1室	作家の扇子	室生犀星・芥川龍之介自筆扇面	
046	第1室	春の情景	泉鏡花自筆短冊「町内の鶯来たり朝櫻」	
047	第1室	春の情景	徳田秋聲自筆短冊「春雨の草履ぬらしめ芝居茶屋」	
048	第1室	春の情景	室生犀星自筆短冊「壺すみれ茶をのみ筵しきにけり」	
049	第1室	春の情景	尾山篤二郎自筆歌幅「山吹はながきはなかもものかげに春なわすれてゆけるににたり」	
050	第1室	春の情景	竹久夢二・画「南都晚春」	
参考品	第1室	春の情景	『山へよする』竹久夢二著 大正8(1919)年10月10日7版 新潮社	
051	第1室	春の情景	坪野哲久自筆歌幅「春潮のあらふるさけば丘こゆる蝶のつばさもまだつよからず」	
052	第1室	春の情景	室生犀星自筆詩幅「小曲」	
053	第1室	春の情景	室生犀星自筆句幅「春あはれ松のみどりの深むさへ」	

054	第1室	春の情景	暁鳥敏自筆歌幅「春あたゝかに二人こもる室をあたゝむ」	
055	第1室	春の情景	森山啓自筆色紙「江津 辛夷咲く山里の春の手取川大滝のごとどろきてはしる」	
056	第1室	春の情景	深田久弥自筆短冊「花やぎつ母子で寝るや春の風邪」	
057	第1室	春の情景	室生犀星自筆短冊「少女らのむらがる芝生萌えにけり」	
058	第1室	春の情景	加藤楸邨自筆句幅「おぼろ夜の鈴か我がか鳴りにけり」	
参考品	第1室	みんなの『源氏物語』	写真「源氏香の図」柄の半纏をまとう泉鏡花	
参考品	第1室	みんなの『源氏物語』	『俠黒兎』尾崎紅葉・泉鏡花共著 明治26(1893)年6月28日 博文館	
059	第1室	みんなの『源氏物語』	泉清次宛泉鏡花書簡 明治26(1893)年7月【推定】	
060	第1室	みんなの『源氏物語』	『倭源氏五十四帖』二代目歌川国貞・画	
061	第1室	みんなの『源氏物語』	杉森久英自筆原稿「谷崎源氏」	
062	第1室	みんなの『源氏物語』	「源氏物語への扉 第1回」さし絵「光源氏」西のぼる・画	作家蔵
063	第1室	みんなの『源氏物語』	「源氏物語への扉 第1回」さし絵「紫の上」西のぼる・画	作家蔵
064	第1室	みんなの『源氏物語』	源氏物語さし絵「源氏物語の登場人物」西のぼる・画	作家蔵
065	第1室	みんなの『源氏物語』	源氏物語さし絵「桐壺の更衣」西のぼる・画	作家蔵
066	第1室	みんなの『源氏物語』	源氏物語さし絵「光源氏と姫君(後の紫の上)」西のぼる・画	作家蔵
067	第1室	みんなの『源氏物語』	「源氏物語への扉 第2回」さし絵「頭の中將」西のぼる・画	作家蔵
068	第1室	みんなの『源氏物語』	「源氏物語への扉 第2回」さし絵「六条御息所」西のぼる・画	作家蔵
参考品	第1室	みんなの『源氏物語』	『精選古典探求【古文編】』	
参考品	第1室	みんなの『源氏物語』	『国民の文学第三巻 源氏物語上下』与謝野晶子訳 三島由紀夫旧蔵	
参考品	第1室	みんなの『源氏物語』	『あさきゆめみし 1~13』大和和紀著	
069	第1室	作家の顔	村井武生遺品 ライフマスク 田中武・作	
070	第1室	作家の顔	画賛幅 正岡子規 尾崎紅葉 泉鏡花 似顔絵並寄書	
071	第1室	作家の顔	芥川龍之介自筆書画幅「水湧や鼻の先だけ暮れのこる」	
参考品	第1室	作家の顔	『大導師信輔の半生』昭和5(1930)年1月15日 岩波書店	
072	第1室	作家の顔	坪野哲久遺品 肖像画 内田巖・画	
073	第1室	作家の顔	広津里香・画 自画像	
参考品	第1室	作家の顔	『画帖 不在証明』広津里香著 昭和55(1980)年11月30日 思潮社	
074	第1室	作家の顔	西村賢太遺品 藤澤清造首像 吉田隆・刻	
参考品	第1室	作家の顔	『根津権現裏』藤澤清造著 大正11(1922)年4月5日 日本図書出版	
075	第1室	作家と美術品	井上靖旧蔵品 鑑真和上模刻像 本郷新・刻	
参考品	第1室	作家と美術品	『天平の薫』井上靖著 昭和33(1958)年9月15日 中央公論社	
076	第1室	作家と美術品	桐生悠々遺品 「三猿」小原古邨・画	
077	第1室	作家と美術品	桐生悠々遺品 布袋像	
参考品	第1室	作家と美術品	『桐生悠々自伝』桐生悠々著 大田雅夫編 昭和48(1973)年7月10日 現代ジャーナリズム出版会	
078	第1室	作家と美術品	中西悟堂遺品 貼り合わせ二曲屏風 小杉放庵・画	
079	第1室	作家と美術品	『庭を造る人』装丁原画 岸田劉生・画	
参考品	第1室	作家と美術品	『庭を造る人』室生犀星著 昭和2(1927)年6月18日 改造社	
080	第1室	作家と美術品	植村宗太郎(植宗)宛室生犀星書簡 [大正]15(1926)年7月5日	
081	第1室	作家と美術品	中野重治遺品 裸婦像 佐藤忠良・刻	
参考品	第1室	作家と美術品	『婦系図 前編』泉鏡花著 明治41(1908)年2月15日 春陽堂	
参考品	第1室	作家と美術品	『婦系図 後編』泉鏡花著 明治41(1908)年6月18日 春陽堂	
082	第1室	作家と美術品	「お蔭の図」鏡木清方・画	
083	第1室	作家と美術品	「婦系図」舞台 喜多村緑郎「湯島」抄 木村荘八・画	
084	第1室	作家と美術品	『月に吠える』口絵原画 田中恭吉・画	
参考品	第1室	作家と美術品	『月に吠える』萩原朔太郎著 大正6(1931)年2月5日 感情詩社	
085	第1室	作家と美術品	『萩原朔太郎詩集』装丁画の右下図 加山又造・画	
参考品	第1室	作家と美術品	『萩原朔太郎詩集』萩原朔太郎著 昭和25(1950)年12月10日 新潮社	
086	第1室	作家と美術品	『黄金の針』装幀原画 山口蓬春・画	
参考品	第1室	作家と美術品	『黄金の針 女流評傳』室生犀星著 昭和36(1961)年4月5日 中央公論社	
087	第1室	作家と美術品	『火の魚』装幀原画 山口蓬春・画	
参考品	第1室	作家と美術品	『火の魚』室生犀星著 昭和35(1960)年3月25日 中央公論社	
088	第1室	作家と美術品	『雪古九谷』装幀原画 西のぼる・画	作家蔵(寄託品)
参考品	第1室	作家と美術品	『雪古九谷』高田宏著 平成13(2001)年2月20日 学陽書房	
089	第1室	作家が描いた絵	夏目漱石自画賛幅「棕櫚竹や月に背いて影二本」	
参考品	第1室	作家が描いた絵	『吾輩は猫である』夏目漱石著 大正14(1925)年3月25日109版 大倉書店	
090	第1室	作家が描いた絵	尾崎紅葉自筆書幅「紅葉山人不二画賛」	
参考品	第1室	作家が描いた絵	『金色夜叉繪巻』尾崎紅葉著 明治45(1912)年1月1日 春陽堂	
091	第1室	作家が描いた絵	萩原朔太郎自筆書額「我れはもと虚無の鴉」	
092	第1室	作家が描いた絵	竹村俊郎宛室生犀星書簡 大正4(1915)年・月日不明	
093	第1室	作家が描いた絵	「キュリー夫人」舞台美術原画「実験室」の場面 北村喜八・画	
094	第1室	作家が描いた絵	尾山篤二郎自画賛幅「あまのかわながめたりしはいくかまへにどこへゆきしときかわすれてしまひぬ」	
095	第1室	作家が描いた絵	絵付け銘々皿 川端康成・画	
096	第1室	作家が描いた絵	芥川龍之介自画賛幅「橋の上ゆ胡瓜なぐれば水ひびきすなはち見ゆるかむろのあたま」	
097	第1室	作家が描いた絵	村井武生・画「汽車のイラスト」『詩集 着物』(昭和8(1933)年5月15日 カスターニア)の見返し	
098	第1室	作家が描いた絵	永瀬清子自筆原稿「ひでちゃんのにつき」	
参考品	第1室	作家が描いた絵	『ひでちゃんのにつき』永瀬清子作 堀内誠一絵 昭和56(1981)年1月1日 福音館書店	
099	第1室	作家が描いた絵	中谷宇吉郎・小宮豊隆画賛幅「小座敷や茶笥のさきに薫る風」	
100	第1室	作家が描いた絵	陣出達朗自筆色紙「茶ばしらの良きことあらめさくら餅」	
参考品	第1室	作家が描いた絵	『北町奉行捕物控 金さん御用帳』陣出達朗著 昭和50(1975)年10月25日 巨朋社	
101	第1室	作家が描いた絵	京極夏彦・画「百鬼夜行繪巻」【部分】	
参考品	第1室	作家が描いた絵	『嗚う伊右衛門』京極夏彦著 平成9(1997)年6月20日 中央公論社	
102	第1室	作家とおしゃれ	島田清次郎遺品 トランク	
103	第1室	作家とおしゃれ	島田清次郎遺品 ハイカラー入れ	

104	第1室	作家とおしゃれ	北村喜八遺品 トランク	
参考品	第1室	作家とおしゃれ	『ヨーロッパ演劇巡禮』北村喜八著 昭和26(1951)年11月1日 日本教文社	
105	第1室	作家とおしゃれ	北村喜八自筆原稿「ロンドンとパリ」	
106	第1室	作家とおしゃれ	西村賢太遺品 アタッシェケース	
107	第1室	作家とおしゃれ	徳田秋聲遺品 信玄袋	徳田家蔵(寄託品)
108	第1室	作家とおしゃれ	室生犀星遺品 背広	
109	第1室	作家とおしゃれ	萩原朔太郎遺品 ネクタイ	
110	第1室	作家とおしゃれ	加能作次郎遺品 懐中時計	
参考品	第1室	作家とおしゃれ	『石川近代文学全集5 加能作次郎・藤澤清造・戸部新十郎』昭和63(1988)年2月29日 石川近代文学館	
111	第1室	作家とおしゃれ	広津里香遺品 羽根帽子	
112	第1室	作家とおしゃれ	広津里香遺品 レースシヨール	
113	第1室	作家とおしゃれ	深田久弥遺品 帽子	※4/27~5/26のみ展示
208	第1室	作家とおしゃれ	深田久弥遺品 パナマ帽	※5/29~6/23のみ展示
114	第1室	作家とおしゃれ	深田久弥遺品 ステッキ	
115	第1室	作家とおしゃれ	深田久弥自筆原稿「日本百名山 第二十一回白馬岳」	
116	第1室	作家とおしゃれ	深田久弥自筆色紙「劔なる大窓小窓天高し」	
参考品	第1室	作家とおしゃれ	『日本百名山』深田久弥著 昭和40(1965)年2月15日 新潮社	
117	第1室	作家とおしゃれ	北村喜八遺品 ティーポット	
118	第1室	作家とおしゃれ	北村喜八遺品 燭台	
119	第1室	作家とおしゃれ	北村喜八遺品 灰皿	
120	第1室	作家とおしゃれ	杉森久英遺品 コーヒーポット	
参考品	第1室	作家とおしゃれ	『アラビア太郎』杉森久英著 昭和45(1970)年8月30日 文藝春秋社	
121	第1室	作家とおしゃれ	杉森久英遺品 卓鈴(孔雀文把手)	
122	第1室	作家とおしゃれ	中西悟堂遺品 香炉	
123	第1室	作家とおしゃれ	戸部新十郎遺品 灰皿	
124	第1室	作家とおしゃれ	永瀬清子遺品 小箱	
125	第1室	作家の文具	鈴木大拙自筆色紙「空」「無」	
126	第1室	作家の文具	鈴木大拙遺品 硯箱(付 硯、墨、筆、筆置き)	(公財)松ヶ岡文庫蔵(寄託品)
127	第1室	作家の文具	桐生悠々遺品 硯	
128	第1室	作家の文具	桐生悠々自筆句幅「山寺や紙粘明け行く滝の音」	
129	第1室	作家の文具	徳田秋聲遺品 矢立	
130	第1室	作家の文具	徳田秋聲自筆短冊「はらゝと薔薇零るゝ月夜哉」	
131	第1室	作家の文具	尾山篤二郎遺品 硯	
132	第1室	作家の文具	尾山篤二郎遺品 筆	
133	第1室	作家の文具	尾山篤二郎自筆短冊「えにしだはこそにまさりてしげければこのはなさかも春ぞまたる」	
参考品	第1室	作家の文具	『歌集 雪客』尾山篤二郎著 昭和36(1961)年1月20日 春秋社	
134	第1室	作家の文具	橋外男遺品 万年筆	
135	第1室	作家の文具	橋外男自筆原稿[ある小説家の思い出]	
参考品	第1室	作家の文具	『ある小説家の思い出』橋外男著 昭和35(1960)年2月5日 中央公論社	
136	第1室	作家の文具	加賀歌二自筆色紙「風満堂」	
137	第1室	作家の文具	加賀歌二遺品 硯箱	
138	第1室	作家の文具	加賀歌二遺品 ペンケースと万年筆	
139	第1室	作家の文具	中野重治遺品 猿面硯	
140	第1室	作家の文具	中野重治自筆短冊「雨は君らのあつい頬にさえる 一九三〇年三月」	
141	第1室	作家の文具	加藤楸邨遺品 筆架	
142	第1室	作家の文具	加藤楸邨遺品 筆	
143	第1室	作家の文具	加藤楸邨自筆短冊「まほろしの鹿はしくるゝばかりなり」	
参考品	第1室	作家の文具	『まほろしの鹿』加藤楸邨著 昭和42(1967)年12月1日 思潮社	
144	第1室	作家の文具	長沢美津遺品 机	
145	第1室	作家の文具	長沢美津遺品 筆	
146	第1室	作家の文具	長沢美津遺品 筆立て	
147	第1室	作家の文具	長沢美津遺品 筆洗	
148	第1室	作家の文具	長沢美津遺品 印泥入れ	
149	第1室	作家の文具	長沢美津遺品 水滴	
150	第1室	作家の文具	長沢美津遺品 硯箱	
151	第1室	作家の文具	長沢美津遺品 螺鈿小箱	
152	第1室	作家の文具	長沢美津自筆歌幅(平成4年歌会始應制歌／題「風」)	
参考品	第1室	作家の文具	『歌集 天地相聞』長沢美津著 平成元(1989)年8月10日 新星書房	
153	第1室	作家の文具	坪野哲久遺品 筆箱	
154	第1室	作家の文具	坪野哲久自筆原稿『碧巖』	
参考品	第1室	作家の文具	『碧巖』坪野哲久著 昭和46(1971)年8月1日 タイガー・プロ	
155	第1室	作家の文具	坪野哲久遺品 紙縫り	
156	第1室	作家の文具	坪野哲久遺品 千枚通し	
157	第1室	作家の文具	坪野哲久遺品 拡大鏡	
158	第1室	作家の文具	坪野哲久遺品 ペーパーウェイト	
159	第1室	作家の文具	坪野哲久遺品 ペーパーナイフ	
160	第1室	作家の文具	戸部新十郎遺品 硯箱	
161	第1室	作家の文具	戸部新十郎自筆色紙「一句定乾坤」	
162	第1室	作家の文具	戸部新十郎遺品 鉛筆箱	
163	第1室	作家の文具	戸部新十郎遺品 ペン立て(付 ペン他)	
164	第1室	作家の文具	戸部新十郎自筆原稿「前田太平記一富田流秘帖」	
参考品	第1室	作家の文具	『前田太平記一富田流秘帖 上下』戸部新十郎著 平成7(1995)年9月25日 毎日新聞社	
165	第1室	作家の文具	筒井康隆愛用品 万年筆	

166	第1室	作家の文具	筒井康隆自筆原稿「虚人たち」	
参考品	第1室	作家の文具	『虚人たち』筒井康隆著 昭和56(1981)年4月15日 中央公論社	
167	第1室	作家の文具	西村賢太遺品 ペン立て(付 ペン他)	
168	第1室	作家の文具	西村賢太遺品 ルーペ	
169	第1室	作家の文具	西村賢太自筆原稿「苦役列車」	
参考品	第1室	作家の文具	『苦役列車』西村賢太著 平成23(2011)年1月25日 新潮社	
170	第2室	名言・格言・座右の銘	西田幾多郎自筆書額「一日不作一日不食」	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『善の研究』西田幾多郎著 明治44(1911)年1月30日 弘道館	
171	第2室	名言・格言・座右の銘	徳田秋声自筆書額「書を読まざること三日、面に垢を生ずとか昔の聖は言ったが〔後略〕」	
172	第2室	名言・格言・座右の銘	徳田秋聲自筆短冊「肯定は否定により深めらる」	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『爛』徳田秋聲著 昭和39(1964)年9月30日 東峰出版	
173	第2室	名言・格言・座右の銘	暁烏敏自筆書額「汝自當知」	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『地球をめぐる』暁烏敏著 昭和5(1930)年1月15日 香草舎	
174	第2室	名言・格言・座右の銘	加能作次郎自筆色紙「人は誰でもその生涯の中に一度位自分で自分を幸福に思ふ時期を持つものである」	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『乳の匂い』昭和16(1941)年8月20日 牧野書店	
175	第2室	名言・格言・座右の銘	室生犀星自筆色紙「我はもとかげろふのごとき人、かげろふの文をつづりて渡世となす」	
176	第2室	名言・格言・座右の銘	中西悟堂自筆書「自分が山へ鳥を探しにくくのは鳥よりもむしろ自分自身をさがしにくくのだ」	
177	第2室	名言・格言・座右の銘	中西悟堂遺品 鳥置物 2羽	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『野鳥と共に』中西悟堂著 昭和10(1935)年12月25日 集林書房	
178	第2室	名言・格言・座右の銘	川端康成自筆原稿「徳田秋聲『爛』(昭和38年 東峰書房)跋」	
179	第2室	名言・格言・座右の銘	中谷宇吉郎自筆書幅「一片の雪の中にも千古の秘密がある一粒の芥子に秋三界が蔵されるやうに」	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『冬の華』中谷宇吉郎著 昭和14(1939)年2月20日第3刷 岩波書店	
180	第2室	名言・格言・座右の銘	中野重治自筆詩幅「歌」	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『中野重治詩集』中野重治著 昭和22(1947)年7月10日 小山書店	
181	第2室	名言・格言・座右の銘	井上靖自筆色紙「私には正確なものだけが美しく見える」	
182	第2室	名言・格言・座右の銘	井上靖自筆色紙「北辰居其所而衆星共之」	
183	第2室	名言・格言・座右の銘	水芦光子自筆色紙「雪の喪章」からの一節	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『雪の喪章』水芦光子著 昭和41(1966)年11月5日3刷 東都書房	
184	第2室	名言・格言・座右の銘	田辺聖子自筆色紙「われはゆくなり只一騎 おどけ笑いの竹槍に 大阪弁のむしろ旗 ドン・キホーテにも似たる哉」	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『道頓堀の雨に別れて以来なり』川柳作家・岸本水府とその時代 上下 田辺聖子著 平成10(1998)年3月7日 中央公論社	
185	第2室	名言・格言・座右の銘	曾野綾子自筆色紙「ただ生きているというだけでそこに生活があると思うのは甘い」	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『黎明』曾野綾子著 昭和34(1959)年2月28日 講談社	
186	第2室	名言・格言・座右の銘	唯川恵自筆色紙「一生恋心」	
参考品	第2室	名言・格言・座右の銘	『肩ごしの恋人』唯川恵著 平成14(2002)年1月25日5刷 マガジンハウス	
187	第2室	名言・格言・座右の銘	西村賢太自筆書「望みなさきに非ず」	
188	第2室	作家と石川	泉鏡花自筆原稿「曇参の記」	
189	第2室	作家と石川	折口信夫自筆歌軸「ありうさにいきつくともなしとおもふのとの七尾にわれは来てけり」	
参考品	第2室	作家と石川	『春のごとぶれ』折口信夫著 昭和5(1930)年1月25日第2刷 梓書房	
190	第2室	作家と石川	加能作次郎自筆色紙「沖のいさり火鳥賊釣り舟かあれば能登衆の胸の火か」	
191	第2室	作家と石川	奥野他見男自筆色紙「楽しみは櫻の花に梅もどき夫婦よく片町散歩」	
参考品	第2室	作家と石川	『大學出の兵隊さん』奥野他見男著 大正4(1915)年10月25日再版 磯部甲陽堂	
192	第2室	作家と石川	室生犀星自筆原稿「故郷を辞す」	
193	第2室	作家と石川	島田清次郎自筆草稿「地上」	
参考品	第2室	作家と石川	『地上第一部 地に潜むもの』島田清次郎著 大正10(1921)年2月20日20版 新潮社	
194	第2室	作家と石川	加賀歌二自筆原稿「貧農に生れて」	
参考品	第2室	作家と石川	『つりのできぬ釣り師』加賀歌二著 昭和47(1972)年7月5日3刷 新日本出版社	
195	第2室	作家と石川	谷口吉郎自筆原稿「わが金沢」	
参考品	第2室	作家と石川	『意匠日記』谷口吉郎著 昭和29(1954)年4月10日 読売新聞社	
196	第2室	作家と石川	森山啓自筆詩額「対山橋」	
参考品	第2室	作家と石川	『北窓ひらく』森山啓著 昭和15(1940)年10月20日 教材社	
197	第2室	作家と石川	長沢美津自筆短歌額「石川門登城の馬乃ひづめおと冴かへるのみ寒のあかとき」	
198	第2室	作家と石川	長沢美津自筆短歌額「犀川の流れのみなもと白山をともに仰ぎて育くまれにき」	
199	第2室	作家と石川	坪野哲久自筆色紙「蟹の肉せり咲へばあこがるゝ生れし能登の冬潮の底」	
200	第2室	作家と石川	杉森久英自筆原稿「能登」	
参考品	第2室	作家と石川	『能登』杉森久英著 昭和59(1984)年11月25日 集英社	
201	第2室	作家と石川	高橋治自筆原稿「名もなき道を」	
参考品	第2室	作家と石川	『名もなき道を』高橋治著 昭和63(1988)年5月18日 講談社	
202	第2室	作家と石川	加賀乙彦自筆原稿「室生犀星と私」	
参考品	第2室	作家と石川	『炎都 上下』加賀乙彦著 平成6(1996)年5月30日 新潮社	
203	第2室	作家と石川	五木寛之自筆原稿「内灘夫人(1)」	
参考品	第2室	作家と石川	『内灘夫人』五木寛之著 昭和53(1978)年2月25日24刷 新潮社	
204	第2室	作家と石川	岡部文夫自筆短歌額「群がりて雪天を飛ぶ朱鷺のこゑたうたうと今に聞こゆるものを」	
参考品	第2室	作家と石川	『歌集 能登』岡部文夫著 昭和60(1985)年6月1日 短歌新聞社	
205	第2室	作家と石川	半村良自筆原稿「筆筈」	
参考品	第2室	作家と石川	『能登怪異譚』半村良著 昭和62(1987)年10月25日 集英社	
206	第2室	作家と石川	古井由吉自筆原稿「長い町の眠り」	
参考品	第2室	作家と石川	『男たちの円居』古井由吉著 昭和46(1971)年2月10日3刷 講談社	
207	第2室	作家と石川	唯川恵自筆色紙「風を想い風に揺れ 川の流れに耳を澄ます金沢は私の原点」	
208	第2室	作家と石川	唯川恵自筆原稿「川面を滑る風」	
209	第2室	作家と石川	井上靖自筆原稿「海」	
210	第2室	作家と石川	井上靖日筆草稿「内灘町井上靖文学碑文」	
211	第2室	作家と石川	井上靖自筆原稿「流星」	
参考品	第2室	作家と石川	『運河』井上靖著 昭和42(1967)年6月25日 筑摩書房	